

令和3年度 税に関する高校生の作文 表彰

税に関する高校生の作文は、次代を担う高校生が税を題材とした作文を書くことを通じて税に対する関心を一層深めることを目的に、国税庁の主催で昭和37年度から毎年実施されているものです。（本年度の応募は全国1,563校から178,807編の作文）

本校においては、現代社会の授業の一環として第2学年の生徒が作文に取り組み応募しました。その中から、野津山千聖さんが福山税務署長賞を受賞しました。

12月7日（火）に福山税務署署長 齊藤 安史 様ご来校され、校長室で表彰式が行われました。

受賞作品介绍

福山税務署長賞 税からうまれる当たり前 野津山千聖（2年）



令和3年度 税に関する高校生の作文

福山税務署長賞

税からうまれる当たり前

広島県立神辺旭高等学校 二年 野津山 千聖

高校入学。私は親から渡されたお金を握って教科書を買に行った。中学に比べ、科目数が多いとはいえ、あまりにも高額で驚いた。今までお金を支払って教科書を買うという行動をしたことがなかった。いや、する必要がなかったのだ。

小中学校で無償で配られる教科書には、次のような言葉が当然のように書かれている。

「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています」

高校二年生になった今、この言葉を見ると、税金のありがたさを感じる。小学生の頃の私は、パンパンのランドセルに教科書を無理やり突っ込んでぐしゃぐしゃにしてしまっていた。一冊いっさつに込められた、深い意味を知っていれば、もっと丁寧に、大切に使うことができたのではないかと思う。

義務教育教科書無償給与制度は憲法第二十六条に掲げる、全国的な教育推進の維持向上、教育の機会的均等の保障、教育の中立性の確保を主な目的としている。九年間、無償で配られてきた教科書の背景には、色々々人の汗水を流し懸命に働く姿がある。教科書代の心配

をせず、勉強することができたのは、多くの人に支えられてきたからだ。教科書だけに限らず、体育館、プール、黒板など私たちのまわりには、税金からうまれた「幸せ」がたくさんあったのだ。そして今、税金に支えられ幸せな生活を送ることができている。整備された道路を自転車をかぎ、少ない金額で医療を受け、災害があれば橋などを修復してくれる。こうした公共サービスも税金という存在のおかげだ。税とは、人がひとに「幸せ」を与え、助け合うことができるものではないだろうか。

高校の教科書にはもう、あの言葉は書かれていない。無償で教科書をいただける年齢ではないということ。しかしそれは、私たちが誰かを支えられる立場に、一歩近づいたということだと思う。そう思うと、強い責任を感じる。選挙権が十八歳に引き下げられ、成人年齢の引き下げも決まった。私たちが本当の社会の一員になる日はもうすぐだ。しっかりと税を納め、誰かを支えられる人になりたい。そのために、今日まで学び続けることができたことに感謝して勉強に励まなければならぬ。そして、十七年間、たくさんのお納税者のおかげで幸せに、元気に暮らすことができた。

「ありがとうございます。」